

上山市市民憲章

- 1 みんな健康でよくはたらき ゆたかなまち 上山をつくりましょう
- 1 みんなきまりをよく守り 住みよいまち 上山をつくりましょう
- 1 みんな互いにたすけあい しあわせのまち 上山をつくりましょう
- 1 みんな教養を身につけ 平和のまち 上山をつくりましょう
- 1 みんな環境をととのえ 美しいまち 上山をつくりましょう

(昭和39年10月1日制定)



上山市章

「上山」の文字をデザイン化し、上山温泉郷のルーツともいえる鶴を象ったものです。同時に種子から萌え出ようとする力を表わし、未来への躍進を象徴しています。

(昭和30年5月24日制定)



市の花「キク」

市内には観賞用から食用まで多くの種類のキクが栽培されています。市制20周年を機に市民からの公募で選ばれました。

(昭和49年10月1日制定)



市の木「アララギ」

アララギ派歌人斎藤茂吉にゆかりの深い樹木で、イチイ科の常緑針葉高木です。市内の各所に見事な老樹名木を見ることができます。市制20周年を機に市民からの公募で選ばれました。

(昭和49年10月1日制定)



市の鳥「コサギ」

きれいな川や水田に生息するコサギの別名は「白鷺」。白く清楚なイメージが城のまちにふさわしいことから、市制40周年を記念して市の鳥に選ばれました。

(平成6年10月1日制定)



市の花木「上ノ山麒麟」

大正期から全国の愛好者に名声を馳せた上山固有の伝統的な品種であり、市制60周年を記念して市の花木に制定されました。

(平成26年10月1日制定)

はじめに



このたび、「つながりつなげる いろどりのまち かみのやま」を将来都市像に掲げた第8次上山市振興計画を策定しました。

本市は、温泉や果物、美しい自然環境、歴史や伝統文化など豊かな地域資源で彩られており、それらを活かす人も、また地域資源です。日常生活にある「あたり前」が実は貴重であり、市民一人ひとりが自分の住んでいるまちの良さに気付くことが大切で、これらを次の世代へ継承・発展させていくことが今を生きる我々の

使命でもあります。

これからも、この上山に住み続け、住んで楽しいまちにしていくためには、本市にかかわる人々が、まちづくりを「自分ゴト」として捉え、様々なことに取り組む市民のつながりの輪を広げていくことが重要です。人や資源がつながり・つなげることで、ほかにはない価値が生まれ、その価値がまちの魅力を高め、市民の「満足度」の向上につながっていきます。

まちなかでは、ここ数年、新たな食事処やワイナリーなどの個性的で魅力ある店が増えているほか、マルシェなどのイベントも数多く開催され、訪れるたびに、変化を楽しめる“新しいワクワクが次々に生まれるまち”に変わりつつあります。また、地域や高齢者の皆様も、地元の良さや経験を活かし、様々な企画などを実践されています。これらは「上山をもっと盛り上げたい」、「上山だから何か楽しいことができるのでは」と考えた市民の皆様が、まちづくりを「自分ゴト」として取り組まれた成果です。

こうした取組を継続・支援することで本市の持続可能な発展につなげられるよう、ここに「かみのやま子ども宣言」の言葉を引用し、市民・企業・関係機関・団体の皆様と協創しながら本計画を推進してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

「やりましょう！」わたしたちにもできること 上山市の一員だから

結びになりますが、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提案をいただきました市民の皆様をはじめ、ご尽力を賜りました上山市振興審議会委員の皆様にご心より厚くお礼を申し上げます。

令和6(2024)年3月

上山市長 山本幸靖

答申のことば



地球レベルで自然環境の破壊が進み、日本においても大地震や風水害等が度々発生し、未来に向けて安心・安全をどう担保していくかという問いが、私たちに突き付けられている。その一方で、ドローンの普及や生成AI技術の進化等、私たちを取り巻く日常やコミュニティのあり方が、大きく変化していくことが予想されている。このような状況下、日本は外国人やインバウンド観光客の増加が進む一方で、少子化、高齢化、人口減少が同時に進行し、近年は人手不足も深刻化しつつある。

私自身はこのような外部環境の変化を踏まえつつ、上山市の個性を保ちながら本市の可能性と諸課題に向き合い、第8次上山市振興計画づくりをしなければならぬと考えていた。そのため本計画は、歴史や現状を踏まえつつ将来や未来の視点から、よいところはさらに伸ばし、直すところは直しつつなるべく利点に変え、必要なものは新たにつけ加えていくようにした。また計画で「合わせ技」ができるところは、人と予算を節約しつつ効果を最大化していくように心がけた。

しかし、本計画策定後は市役所職員だけで実践していけばいいかという決してそうではない。むしろ、その後の実施計画の策定と実践は、これまでも増して市民、組織、団体、企業等の参加と協力と知恵の結集が必要となる。その理由は、かつて上山に配流された沢庵禅師の教えに見出すことができる。彼は時の藩主、土岐頼行に対して、政の要諦は「上中下三字説」にあると説いた。上は君で、中は臣、下は領民を指し、上下は一体で、それを結ぶのが「中」（口にたて線）であるという。つまり上下対等に「よく話し、よく聞く」ということである。ところで、本計画は「つながりつなげる いろいろのまち かみのやま」という大きな目標を掲げている。その意図するところは沢庵禅師の考えにも通じると思っている。

今後、実施計画の策定とその実践は、なるべく多くの多彩な人材に光を当てて、社会参加と活躍と相互連携を促せればと思う。その結果、産業では創造的な農観連携（農業と観光）や福観連携（福祉と観光）等、「新しい結合」を生み出すことが期待できる。福祉では、貧困家庭や障がい者等、社会的弱者に対して支援するだけでなく、彼らが活躍し、希望が持てる環境が整備されることが期待できる。教育も英語教育に加え、健康な子、思いやりのある子、判断力と実践力のある地頭のよい子等が、相互に学び合いながら多様に育つ教育が期待できる。そして老朽化対策以外の施設、道路、橋等のインフラ整備は、産業、福祉、教育等の動きを促進・強化する方向で整備されていくことが期待できる。

地域づくりは「人づくりに始まり、人づくりに終わる」と言われる。人材が育てば、現状の地域づくりだけでなく、次世代をにらんだよりよい地域づくりも可能になる。そうなれば、上山市民も夢を持って、ここでずっと暮らしていける安心感とプライドが、さらに醸成されていくに違いない。本計画がその役割と責任の一端を果たせることを願っている。

上山市振興審議会 会長 柳 井 雅 也

目次 INDEX

第1部 総論

第1章 策定の趣旨

第2章 計画の構成と期間

- 1 計画の構成 10
- 2 個別計画との関係 10
- 3 計画の期間 11

第3章 計画の特色

- 1 わかりやすく実効性のある計画 12
- 2 市民とともに作り、実現する計画 12
- 3 SDGsの理念を踏まえた計画 12

第4章 上山市の人口

- 1 人口動向 13
- 2 将来人口推計 15

第2部 基本構想

第1章 まちづくりの目標

- 1 将来都市像 19
- 2 将来指標 20

第2章 目標の実現に向けて

第3章 施策の大綱

- 1 笑顔 23
- 2 元気 24
- 3 挑戦 25
- 4 持続 26
- 5 快適 27

第4章 土地利用

- 1 土地利用の基本方針……………28
- 2 土地利用の基本的配置……………28

第3部 基本計画

- リーディングプロジェクト……………33
- 基本計画の見方……………34

第1章 笑顔「みんなが笑顔で輝けるまちをつくれます」

- 1-1 子育て……………38
- 1-2 学校教育……………41
- 1-3 グローバル社会……………45
- 1-4 学校施設……………47
- 1-5 社会教育……………50
- 1-6 文化財・文化芸術……………53
- 1-7 障がい者福祉……………56
- 1-8 低所得者福祉……………58
- 1-9 シティプロモーション……………60
- 1-10 国内外交流……………62
- 1-11 多様性社会……………64

第2章 元気「ともに支え合い、元気に暮らせるまちをつくれます」

- 2-1 健康……………68
- 2-2 スポーツ……………71
- 2-3 介護予防……………74
- 2-4 公的医療保険……………76
- 2-5 地域福祉……………78
- 2-6 高齢者福祉……………80

第3章 挑戦「みんなが挑戦できるまちをつくれます」

- 3-1 商業……………84
- 3-2 工業……………87

総論
第1部

基本構想
第2部

基本計画
第3部

笑顔
第1章

元気
第2章

挑戦
第3章

持続
第4章

快適
第5章

計画の推進
第6章

資料編

3-3	観光業	90
3-4	農業	92
3-5	人材・雇用	95
第4章 持続「安心して暮らせる持続可能なまちをつくります」		
4-1	道路	98
4-2	河川	100
4-3	上下水道	102
4-4	都市空間	106
4-5	公共交通	111
4-6	防災・減災	114
4-7	消防	116
4-8	防犯・交通安全	119
第5章 快適「快適に住み続けられるまちをつくります」		
5-1	自然環境	124
5-2	生活環境	127
5-3	地球温暖化	129
5-4	循環型社会	131
第6章 計画の推進		
6-1	市民参画	134
6-2	広報・広聴	136
6-3	行政運営	138
6-4	財政運営	142
6-5	DX	144
資料編		147